

文学部

文学部生の

5

リアルな！

vol.25

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。



文学部って地味!?

私は幼いころから外国の映画や音楽がとても好きで、その影響から海外への憧れと言語への興味を抱くようになりました。そんなある日、海外のテレビドラマで実際に話されている内容と日本語字幕が一致していないことや、外国曲の日本語バージョンの多くが元の歌詞の意味と大きく異っていることに疑問を抱きました。これをきっかけに英語以外の言語も学びたいと思い、文学部への進学をめざしました。文学部という「ひたすら本を読む



文学部で本や言語の偉大さを実感

でそう」「地味」という声をよく聞きます。実は私もそうなのかなと思っていたのですが、入学後にその偏見は大きく変わりました。言語の授業では、文法だけでなく人間が言語を習得する過程や言葉の意味、音や社会的観点から考察をし、文学や文化の授業では、たとえば音楽という観点などからアメリカの時代背景を学んだり、それまでの私にはなかった切り口で、自分の好きなテーマを多角的に楽しく学べる授業が多いように感じます。文学部での学びを経て、既知の作品を以前とは異なる見方で鑑賞することが最近の楽し



授業見学させていただいたハーバード大学にて（前列左から2番目が筆者）

ポストンでの経験

私はFLP国際協力プログラムの武石ゼミに所属しています。入学前から大学の4年間は機会を逃さずより多くのことに挑戦したくさんのことを吸収したいと考えていたので、FLPの醍醐味である「学部の枠を越えた学び」にとっても魅力を感じました。最初は少しの不安があったのですが、現在は期待を大きく上回る学びを得ることがで



ポストンにて

挑戦と学び

こむろ みなみ
小室 美波

文学部人文社会学科英語文学文化専攻3年
東京都立東大和南高校出身

きています。昨年度は持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられている17のグローバル目標から関心のあるテーマについて調査しました。2018年10月28日（日）から11月4日（日）にアメリカ・ポストンで研修を行い、現地の大学を訪問して同年代の学生に向けて調査に関する発表し、議論を行いました。アメリカの学生から「日本はいい社会か、悪い社会か」と聞かれた際、私たち日本の学生はどちらにも手を挙げることができませんでした。なぜなら、良い面もあればそうでない面もあり、どちらか一方に決めなければならぬという考えがなかったからです。また「愛とは何か」「自由」「平等」「幸せ」などアメリカの学生は自分の意見を持っているのに対し、私はその時点で深く考えた機会がなかったた



和田中グローバルゲートウェイ (WGG) 大成功！(前列左から3番目が筆者)

2019年7月31日(水)、私たちは2019年度から開始した学校応援プロジェクトの二環で多摩市立和田中学校を訪問しました。学校応援プロジェクトは現在3つのプログラムが存在し、今回はグローバル教育プロ

新たな挑戦

め、何も発言することができませんでした。また、伝えたいことも英語力と自信と勇気のなさから言えず、同世代であるにもかかわらず何もできない自分が恥ずかしく、自分の未熟さを痛感しました。また日本の学生同士では論点としてあがらなかった意見を多くもらい、この経験を通して見方や考え方の視野が以前より広がったように感じます。ポストンでの経験は私に大きな影響を与え、決して忘れることができないものになりました。

From the Faculty of Letters



文学部 だより



朝活、
オススメです！

文学部事務室 加藤 裕幹

ご父母の皆さま、初めまして。7月付で文学部事務室に異動してまいりました加藤裕幹と申します。これまで後楽園キャンパスの研究支援室にて、主に理工学部の先生方を「研究」の面からサポートする仕事をしておりました。これからは「研究」と「教育」の両面から、学生の皆さんにとって最高の環境を作ることができるようサポートしていく所存です。

さて、突然ですが、私は「超」がつくほどの朝型人間で、休日の予定のために2時起きや3時起きをすることも苦にならないタイプです。そんな私でも平日の朝は気分爽快とはいかず、今一つ朝食を食べる気にならないこともしばしばです。そのため、週末にお粥を作り置きして、平日の朝に備えています。

学生の皆さん、特に一人暮らしをされている皆さんは朝食を食べないこともよくあるでしょう。季節の変わり目でもあるこの季節、しっかりと朝食をとって健康管理にはご注意ください。皆さんのために、多摩キャンパスCスクエア2階のLeaf Cafeでは朝食メニューを用意し、ヘルトアップ2階のバーカーリー&カフェ・フラッシュでは早い時間からパンを販売しています。Cスクエアは文学部棟からほど近く、多摩モノレールの駅からの途中にはスタバックスもあります。

ラムに参加しました。構成メンバーは教職課程を履修している人だけでなく、中央大学で学ぶ留学生も企画からともに考えました。学校での聴取を経て「オンライングリッシュによる異文化交流を通じて積極的にチャレンジする姿勢を養い、英語コミュニケーションの成功体験を得る」という目的を定め、先生方のご指導のもと何度も議論を重ねました。試行錯誤の末、当日は総合わせゲームやアクションを伴うビ

ンゴゲーム、そして文化や趣味をテーマに会話しました。想像していた以上に、中学生たちの笑顔や、積極的に「伝えよう、理解しよう」という姿勢を見ることができ、私自身とても刺激を受け、ここでも多くを学ぶことができました。

終わりに

中央大学で過ごしたこの2年半で、勉強は試験で良い点数を取るためにするものでなく、自分自身や大切な人を守るために必要だと気づきました。この歳になり学ぶことの大切さを身をもって感じ、充実した学生生活を送ることができています。最後になりましたが、文学部の先生方、武石先生、友人、かかわってくださっているすべての方々、そして何より私を支え、大学に通わせてくれたる家族に感謝しています。最後まで読んでいただきありがとうございました。